

— 日露両国の相互理解と信頼を深めるために —

Japan' Northern Territories

北方領土返還要求運動のシンボルの「花」千島桜



このシンボルは、公益社団法人北方領土復帰期成同盟が北方領土返還要求運動のシンボルの花として公募し、北方四島に分布する「千島桜」をデザインしたものです。



国後島

えとろふとう
択捉島



択捉島(散布山)

くなしりとう
国後島

しこたんとう
色丹島

はぼまいぐんとう
歯舞群島

ほっかいどう
北海道

北方領土の面積

歯舞群島	95km [※]
色丹島	249km [※]
国後島	1,489km [※]
択捉島	3,167km [※]
計	5,003km [※]

注) 国土地理院(H26.10.1現在、小数点以下四捨五入)

注) ※印の面積には周辺の小さな島の面積を含んでいます。

北方領土の地勢

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島を合わせた面積は、福岡県(4,987km²)や千葉県(5,158km²)とほぼ同じ広さです。歯舞群島と色丹島は緩やかな丘陵で、地質構造が根室半島と同じことから、もともと地続きであったと考えられています。

国後島や択捉島は、典型的な火山島で、温泉や1,000mを超える活火山も多く、土地は急峻で平野は少なくなっています。



歯舞群島(勇留島)



色丹島

返還要求運動

北方領土返還要求運動が起こったのは、1945年(昭和20年)12月1日、当時の根室町長である安藤石典氏が、連合国軍最高司令官マッカーサー元帥あてに陳情書を提出したのが始まりです。その後、元島民、根室市、北海道、返還運動団体が中心となって返還要求運動が進められ、この運動の輪は全国に広がり、運動の母体となる県民会議が47都道府県すべてに組織され、街頭での署名活動をはじめ各種の啓発活動を推進し、国民世論の結集を図るとともに、毎年、政府や国会に対して要請・請願活動を行っています。

また、2月と8月は北方領土返還運動全国強調月間として、全国各地で国民世論を盛り上げる各種の運動が展開されています。北海道内の各地においても、地域のお祭りやさまざまな行事と併せて署名活動、パネル展などが開催されています。



択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島からなる北方領土は、父祖伝来の地として受け継いできたもので、いまだかつて一度も外国の領土となったことがない、我が国固有の領土です。

しかし、終戦直後にソ連軍により北方領土は不法占拠され、島民は島を追われ、この状態はソ連が崩壊しロシアとなった現在も続いています。戦後、我が国は一貫して、北方領土の返還をロシア(ソ連)に対して要求し続けています。1956年、日ソ共同宣言が署名され、両国間の国交が回復されてから60年以上が過ぎていますが、返還の見通しは立っていません。北方領土問題の解決は、日ロ両国間の最大の懸案事項であり、日ロ間の真の関係改善のためには、北方領土問題を早期に解決し、平和条約を締結する必要があります。そのためには、国民一人ひとりがこの問題について正しく理解し、国民世論を盛り上げ、政府の外交交渉を支援していくことが大切です。

2月7日は「北方領土」の日

北方領土返還運動の盛り上げを図るため、政府は、1981年(昭和56年)1月6日の閣議了解により、毎年2月7日を「北方領土の日」とすることを決めました。

2月7日は、1855年(安政元年)伊豆下田において日魯通好条約が調印された日です。この条約によって、日本とロシアの国境を択捉島とウルップ島の間と定められ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島が日本の領土であることが国際的にも明確にされたのです。



北方領土に生息する動物たちと花 ～北方四島には珍しい動物や植物が生息しています～



シマフクロウ



エトピリカ



ラッコ



アザラシ



ウルップ草



チシマキンバイソウ

北方領土の入域自粛について

日本政府は、日本国民がロシアの査証(ビザ)を取得して北方四島に入域することは、「北方領土は我が国固有の領土」という日本政府の立場と相容れないため、これを自粛するように求めています。

(平成元年9月19日の閣議了解による)